

小学校 国語

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	52.0	51.3
大分県	52.1	51.6

(2)観点別・領域別正答率

	観 点				領 域			
	話す・聞く 能力	書く 能力	読む 能力	言語について の知識理解 技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文 化と国語の特質 に関する事項
目標値	76.7	57.7	68.4	72.6	76.7	56.7	71.4	73.3
宇佐市	85.5	67.8	68.6	79.9	85.5	67.1	71.6	80.5
県	83.4	67.4	70.6	80.5	83.4	66.8	73.4	81.0
偏差値	51.3	53.3	49.9	51.5	51.3	53.3	49.9	51.3

(3)結果のポイント

- 知識・活用において偏差値50を上回っている。
- 観点別・領域別正答率では、観点別「読む能力」「言語についての知識理解技能」、領域別「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、県平均を下回っている。特に「読む」について差が大きく、偏差値 50 に達していない状況がある。
- 「話の内容を聞き取る」「言葉の学習」「漢字」「作文」については、概ね目標値を上回っている。

(4)授業の改善のポイント

中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えて文章を読む力が身につけるために…

☆段落のまとまりを理解して文章の内容を的確に読み取ることができるための具体的な手立て

○文章構成について確かめ、それぞれのまとまりや段落がどのような役割を果たしているかを考えるような学習を仕組む。

・段落の関係を考えさせる。(問と答え、対比、まとめ など)

○書くことにおける学習との関連付けを図る。

・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成させる。

※段落のまとまり、文章構成については低学年の時から学習の積み重ねが大切。

学年の発達段階に応じた手立てを工夫する。

段落の仲間わけをする、小見出しをつける、文章構成図を作る(選択する・意見交流により作る・など、その実態に合わせて。←いつでも「根拠」を本文の叙述に立ち返りながら明確にしておく

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	51.3	51.0
大分県	52.2	52.1

(2)観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	数学的な考 方	数量や図形に ついての表現・ 処理	数量や図形に ついての知識・ 理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
目標値	56.6	69.0	66.1	71.8	66.7	56.3	54.2
宇佐市	57.3	71.0	68.4	73.7	68.2	57.7	57.8
県	59.6	72.6	71.1	76.4	69.6	60.5	58.4
偏差値	51.0	51.3	51.3	50.8	50.7	51.9	51.7

(3)結果のポイント

- 「知識」「活用」において偏差値 50 を上回っている。
- 観点別、領域別においても県平均を下回っている。

(4)授業の改善のポイント

問題解決の方法やその手順を数学的な表現を用いて解決する力が身につけるために…

- ☆図形(平行四辺形)の特徴を使って二つの道のりが等しくなる理由を説明する問題にかかわって…
 - 図形を構成する要素である辺の平行や垂直関係に着目し、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見出し、図形の構成の仕方について考えられるように指導する。
 - 児童が「筋道を考え、理由を説明できるようになる」ため、日頃の授業で、「説明の基本形」等を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。

それぞれのグラフから見いだせる傾向や特徴についての理由を説明する力が身につけるために…

- ☆折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題にかかわって…
 - 複数の数量が表されているグラフにおいてそれぞれのグラフが何を表しているのかの把握をさせる。
 - 一方のグラフだけで判断させず、折れ線グラフと棒グラフの両方を用い、増減等について順序良く考えさせる。
 - 児童が「筋道を考え、理由を説明できるようになる」ため、日頃の授業で、「説明の基本形」等を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	51.5	50.8
大分県	52.2	51.3

(2)観点別・領域別正答率

	観 点			領 域	
	科学的な思考・ 表現	観察・実験の技 能	自然事象について の知識・理解	物質・エネルギー	生命・地球
目標値	62.5	75.0	68.1	63.4	76.7
宇佐市	64.4	76.8	70.6	62.9	74.7
県	65.9	81.1	71.4	63.4	76.7
偏差値	51.0	50.6	51.6	50.9	51.7

(3)結果のポイント

- 偏差値50は上回っているが、偏差値は、「知識」「活用」とともに目標値、県平均を下回っている。
- 観点別、領域別においてもすべて県平均を下回っている。

3. 授業の改善のポイント

- ・自然現象についての概念を既習事項と関係づけるために…(→水の状態変化)
- ・自然現象についてのイメージを既習事項から身につけるために…(→空気の温まり方)
- ・因果関係により、情報を整理して、適切に表現できるために…(→おもちゃの豆電球が光る仕組み)

〈学習指導要領解説理科編より〉

- 水の状態変化と温度の変化とを関連付けて調べる活動を通して、生活経験を基に根拠ある予想や仮説を表現する指導を行う。
- 水や空気は熱をくわえられた部分が上方に移動して全体が温まっていくことを捉えるようにする。
→生活経験と結びつけたり、実際に体験して実感したりする工夫が必要。

○整理した情報の関係を分析する場面を授業の中に設定する

- ・共通点や相違点から情報を比較する
- ・情報の変化の様子を捉える
- ・情報を多面的、多角的にとらえる
- ・情報と情報のつながりを見つける
- * 因果関係・相関関係・順序関係・包含関係

(小学生のための「言語能力」育成ハンドブックより)

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	51.8	52.0
大分県	51.5	51.8

(2)観点別・領域別正答率

	観点				領域			
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
目標値	64.2	64.7	50.9	70.2	64.0	65.7	49.3	70.4
宇佐市	71.6	75.0	56.0	77.2	71.3	76.4	53.8	77.2
県	70.1	74.5	54.1	77.6	69.7	76.1	51.9	77.6
偏差値	51.3	51.9	51.3	51.3	51.3	51.8	51.2	51.2

(3)結果のポイント

- 知識、活用ともに偏差値50を上回っている。
- 観点別・領域別で、「話す・聞く」「読む能力」「読むこと」では、県を上回っているが、「言語」で下回っている。
- 「記述式」問題が良好である。

(4)授業の改善のポイント

- ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、内容を把握する力が身につけるために…
- ・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する力が身につけるために…

○段落の役割に着目させ、文章の内容を捉えさせるような学習を仕組む。

(例)文章全体の中で、それぞれの段落はどのような役割をもっているか。

- ・話題提示、問い、答え、例示、引用、まとめ 等

(例)登場人物が○○したのはどのような理由からか。

- ・言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読ませる。

○説明文においては、それぞれの段落の役割や関連性をとらえ、文章構成図にあらわすなど、文章全体を視覚的に捉える学習活動を行う。

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	50.5	50.5
大分県	50.5	50.3

(2)観点別・領域別正答率

	観点			領域				
	社会的な思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的事象 についての 知識・理解	世界の 地域構成	世界各地 の人々の 生活と環境	世界の諸 地域	古代までの 日本	中世の日 本
目標値	56.1	62.9	65.8	56.7	66.3	63.6	66.7	55.0
宇佐市	61.1	66.0	70.4	55.5	73.0	64.7	73.6	59.6
県	60.5	65.6	70.8	55.5	71.9	65.2	73.6	59.1
偏差値	50.7	50.8	51.6	50.9	51.3	49.8	51.4	52.0

(3)結果のポイント

- 偏差値では、「知識」は50を上回っているが、「活用」で下回っている。
- 観点・領域において、「世界の諸地域」以外は偏差値50を超え、概ね良好である。
- 問題別では「世界の気候(雨温図)」「世界の宗教」「院政」「室町文化」などがよくできている。

(4)授業の改善のポイント

- ・緯度と経度の理解・北緯と南緯、東経と西経、メルカトル法と正距方位図法の特徴や用途の理解
→地図に関する基礎的基本的な理解するために…
- ・2つの資料から共通点を見出す、資料中の語句2つを用いて説明する
→情報の取り出しとそれらの結びつけができるために…

- メルカトル図法や正距方位図法等、それぞれの地図がもつ特色を理解させるとともに、その地図の表し方の良さについて、実感を伴うような活動を仕組む。
- 平素から地図帳を十分活用するとともに、生徒の地理的技能の習熟の様子を踏まえながら、地図から様々な情報を読み取る活動を繰り返し指導する。
- 資料を活用できない場合、どの段階でつまづいているのかを把握し、支援・指導していく。
 - ①複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階
 - ②取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階
 - ③比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って記述する段階
- 複数の資料から情報を取り出し、関連付けて社会の中にある問題を見つけたり、その解決に向けて考えたりする場面を設定する。
- グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、そこから広がった考えを記述したりする場面を設定する。

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	50.8	50.4
大分県	50.7	50.6

(2)観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形についての知識・理解	数と式	図形	関数	資料の活用
目標値	43.7	56.8	53.2	65.7	56.4	39.4	43.3
宇佐市	43.3	60.4	56.8	70.1	58.5	40.0	46.1
県	43.2	60.0	56.9	70.0	57.4	40.4	47.0
偏差値	50.1	50.9	51.7	50.6	50.6	51.6	51.0

(3)結果のポイント

- 偏差値については「知識」「活用」ともに50を上回っている。
- 観点別では、「数学的な見方・考え方」「技能」、領域別では「数と式」「図形」で県を上回っている。「数量や図形についての知識・理解」「関数」「資料の活用」では、県を下回っている。
- 「正の数負の数」「計算の復習」「空間図形」はよくできている。

(4)授業の改善のポイント

- ・関数関係の意味の理解ができるために…
- ・角の二等分線、垂直二等分線作図の方法や性質についての理解ができるために…
- ・与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明することができるために…

- 二つの数量の意味について、「…は…の関数である」などの表現を用いてとらえ、変化や対応の様子に注目して関数関係についての意味を理解できるように指導する。
- 作図の方法を一方向的に与えるのではなく、平面図形の対称性に着目することで、図形の性質を根拠にしながらか作図方法を見出す活動を仕組む。
- 扇形の中心核を求める方法について、与えられた関係式を「用いるもの」として明確にさせ、どのように用いればよいかを検討する場面を設定する。
- 「用い方」として、「与えられた式に $y=20$ を代入し、その時の x の値を求める」などと数学的な表現を用いて説明できるように指導する

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	51.1	51.1
大分県	50.8	50.9

(2)観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象について知識・理解	エネルギー	粒子	生命	地球
目標値	50.3	66.5	60.6	54.0	64.0	57.1	52.5
宇佐市	54.5	67.8	65.6	56.7	67.9	64.9	55.5
県	53.7	70.3	63.8	55.1	69.2	63.2	54.6
偏差値	50.9	49.4	51.7	50.6	49.9	51.9	51.6

(3)結果のポイント

- 知識、活用ともに偏差値50を超えており、県を上回っている。
- 観点、領域別においては、「観察・実験の技能・表現」と「粒子」が県を下回っている。
- 問題別では、「植物の体のつくりと働き」「植物の分類」「物質の状態変化」「身のまわりの物質とその性質」「光の性質」がよくできている。

(4)指導の改善のポイント

- ・力の大きさを表す問題について、作用点を見いだせるために…
- ・空気など音を伝える物質が必要であること、その働きがどのようなものであるかを理解するために…
- ・課題と実験結果と自然現象が関連づけて考えられるために…

- 接触している物体間で働く力と、離れている物体間で働く力を区別する。
- 三角ロジックで論理的思考力を鍛える。
 - ・主張とデータ(事実)と理由づけの3つを区別し、考える。(言語活動ハンドブック 中学校用)
- 情報を整理・分析する指導をする。
 - ・因果関係、相関関係、包含関係等(言語活動ハンドブック 中学校用)
- 学習過程のイメージを意識して指導する(学習指導要領解説)
 - ・学習課題の把握(自然現象に対する気づき、課題の設定)
 - ・課題の探究(仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理)
 - ・結果の解決(考察・推論、表現・伝達)

(1)偏差値

	知識	活用
宇佐市	49.0	49.3
大分県	50.3	50.3

(2)観点別・領域別正答率

	観 点			領 域		
	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと
目標値	45.0	65.3	59.6	71.0	62.1	50.8
宇佐市	40.5	65.0	50.1	71.7	57.8	43.5
県	46.0	65.1	56.1	71.6	58.5	50.8
偏差値	48.9	49.7	48.5	50.1	49.6	48.3

(3)結果のポイント

- 偏差値は知識、活用ともに50を下回り、県を下回っている。
- 観点別はすべて県を下回っている。領域は「聞くこと」において偏差値 50 を超え、県を上回っているが、「読むこと」「書くこと」で県を下回っている

(4)授業の改善のポイント

- ・何を問われているかは聞き取れているので、その問いに応じた受け答え方を理解するために…
- ・対話の流れに沿った英文を、適切な表現を用いて書くことができるようになるために…

○基本的な語彙や場面に応じた応答の仕方については、教師と生徒、生徒同士のやり取り等を日常化し、指導の際に、目的や場面、状況を設定した言語活動の中で、様々なやり取りを通して、答え方にはいろいろあることを学ばせる。

また、やり取りの後には、自分の表現した内容を書かせる。

○読んだ内容について、自分の考えや得た情報を自分の言葉で述べたり、書いたりするなどの活動を位置づける。

○中学 1 年生の教科書素材文など、これまでに習った対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考える活動を仕組む。その際、書く活動だけでなく、口頭で答えるなど、聞く・話す活動を通して、英文の意味を理解しながら書く事の活動を行うようにする。

○会話文に限らず、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになるためには、単に英文1文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら話の流れ全体を理解する必要がある。

聞いたり読んだりした内容をしっかり理解したうえで、「書くこと」の活動につなげる技術統合型言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。

【小学校】

◎全国を5ポイント以上上回る項目 ※数値は肯定値%(良好な回答の合計)

番号	質問	宇佐市	全国
1	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	90.5	80.6
2	クラスや友だちの間に話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか	63.9	55.5
3	クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できる方法を考えて、提案する方ですか	58.7	51.5
4	クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか	70.3	60.6
5	家で勉強するときは自分で計画を立てていますか	57.2	62.6
6	テストで間違えた問題はあとでやり直していますか	85.1	78.5
7	家の人から言われなくても、進んで勉強していますか	76.7	70.6
8	友だちと、メールやSNS(LINE など)でのやりとりをすることがありますか(ないと答えた子ども)	47.0	41.4
9	学校生活の中で何回くらい自分の意見を発表したり先生の質問に答えたりしていますか(肯定率…1時間の授業で1回以上とする)	70.8	49.9

▲全国を5ポイント以上下回る項目

番号	質問	宇佐市	全国
1	信じていた友だちから思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか(ないと答えた子ども)	50.3	56.1
2	いじめを見たり聞いたりして心を痛めることがありますか(いじめはない・知らないという子ども)	65.1	76.3
3	クラスの友だちからいじめのさそいを受けたことがありますか(ないという子ども)	88.4	94.9
4	イライラして家の人とぶつかってしまうことがありますか(ないという子ども)	76.0	81.5
5	自分のことが好きである	54.1	62.3
6	家で授業の予習や復習をしていますか	43.1	53.1
7	学校に行くのは楽しい	72.5	86.3

○全体的に「規範意識」や「思いを伝える力」が高い。

○学習に対して前向きであるが、自主的に学ぶ(家庭学習の計画や予習復習等)項目はやや低い傾向にある。

○「自分のことが好きである」「学校に行くのは楽しい」は、昨年度も挙がっており、「自己肯定感の低さ」や1・2・3項目と絡めて「友だちとのつながり」などについて、小さなサインも見逃さないようアンテナを張り、取り組むことが重要である。子ども同士をつなぐ取組を行うとともに教職員間、保護者等との連携も必要。

▲その他の回答様式で改善が見られる項目・課題が見られる項目

1	平日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聴いたりしますか	3時間以上 29.7% (全国 26.8% 県 21.3%)H30…20.5%
2	土日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聴いたりしますか	3時間以上 29.7% (全国 26.8% 県 31.3%)H30…30.7%
3	平日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか	2時間 13.8% (全国 16.3% 県 14.3%)H30…9.3% 2時間30分 10.5% (全国 11.9% 県 8.6%)H30…3.6% 3時間以上 29.7% (全国 31.3% 県 26.8%)H30…10.6%
4	土日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか	2時間 11% (全国4.5% 県8.4%)H30…9.0% 2時間30分 7.5% (全国2.0% 県4.5%)H30…6.5% 3時間以上 13.6% (全国3.0% 県10.2%)H30…17.4%

○一昨年度、改善傾向が見られたテレビ・ビデオの視聴時間とゲームだが、昨年度に続き、本年度もさらに時間が増加している。特に土日に長くなる傾向があり、小中連携したメディアコントロールの取組や保護者への啓発も引き続き必要である。

【中学校】

◎全国を5ポイント以上上回る項目 ※数値は肯定値(良好な回答の合計)

番号	質問	宇佐市	全国
1	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	93.4	74.8
2	あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか	81.0	73.7
3	お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加していますか	76.2	68.1
4	つらかったとき、くやしかったとき、友だちからの優しい言葉で心がなぐさめられたことがありますか	79.9	73.5
5	宿題は週に何日ぐらい出ますか(毎日)	94.4	64.0
6	家で週に何日ぐらい勉強しますか(肯定…ほぼ毎日+4~5日)	75.7	64.0
7	家で授業の予習や復習をしていますか	53.3	47.7
8	テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか	70.3	60.1
9	家では、勉強する場所を決めている	82.7	75.8
10	家の人から言われなくても進んで勉強していますか	70.1	54.7
11	1年生の時に受けた授業の最後に学習内容のまとめや振り返りをよく行っていた	91.5	87.8
12	1年生の時に受けた授業では学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行った	79.1	66.1
13	2年生の時に受けた授業では学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理し、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	82	71.3

▲全国を5ポイント以上下回る項目

番号	質問	宇佐市	全国
1	友だちと、メールや SNS(LINE など)でのやりとりをすることがありますか(ないと答えた子ども)	67.9	77.6
2	自分がいつターゲットになってしまうか、不安を感じることはありませんか(ないと答えた子ども)	74.0	82.8
3	クラスや部活内で冷やかされたりからかわれたり、いやなことをしつこくいわれたりすることがありますか	70.1	78.6
4	仲のいい友だちから自分がどう思われているか、気になることがありますか(ないと答えた子ども)	52.6	64.8

○全体的に肯定的な回答が多く、「学びに向かおうとする様子」がうかがえる。

○「規範意識」「学習習慣」「社会参画」が特に高い。

○「対人ストレス」「いじめのサイン」がやや高く、生徒人ひとりの様子や友だち関係について、チームとして組織的な生徒指導が重要である。

▲その他の回答様式で改善が見られる項目・課題が見られる項目

1	平日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか	3時間以上 16.8%(全国 22.9% 県 14.02%) H30…21.5% H29…20.9%
2	土日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか	3時間以上 38.8%(全国 48.8% 県 34.3%) H30…40.1% H29…44.7%
3	平日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか	2時間 13.4%(全国 5.1% 県 13.3%)H30…12.1% 2時間30分 7.8%(全国 1.3% 県 5.2%)H30…4.9% 3時間以上 20.2%(全国 2.3% 県 13.8%) H30…15.5%
4	土日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか	2時間 14.8%(全国 10.8% 県 14.2%)H30…12.1% 2時間30分 6.6%(全国 3.6% 県 7.2%)H30…4.8% 3時間以上 41.9%(全国 12.0% 県 32.4%) H30…30.5%
5	平日1日当たりどれくらい携帯・スマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか	3時間以上 11.4%(全国不明 県 7.1%) H30…9.2%
6	土日1日当たりどれくらい携帯・スマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか	3時間以上 16.1%(全国不明 県 14.2%) H30…13.0%

○テレビの視聴時間は、平日、土日ともに、徐々に改善傾向が見られる。引き続きメディアコントロール等の取組がさらに家庭に浸透していくことが望まれる。

○ゲーム3時間以上の割合が、全国に比べて、依然としてかなり高い。

○携帯・スマートフォンについては、平日・土日とも昨年度より増加している。上記ゲームについては携帯式のゲーム、スマートフォンによるものも含まれることを考えると、携帯・スマートフォンの使用について、家庭と連携しながら取り組みを進める必要がある。